

内宮へ

日本人の
総氏神様を祀る
永遠の聖域

なごくり

START

●うじばし
1 宇治橋

内宮は右側通行が基本です

内宮の玄関口は、まっさらの檜橋

内宮の入口、五十鈴川に架かる美しい檜造りの反り橋。平成25年の式年遷宮に伴って、ひと足早く平成21年に架け替えられたばかり。ケヤキ材で組まれた橋脚も見事なので、渡るだけでなく横からもぜひ眺めてみよう。



宇治橋の欄干に取り付けられた飾り・擬宝珠は全部で16。そのうち、橋の北側、西から2つ目の擬宝珠の中には、宇治橋をお守りする神様を祀る内宮前の資土橋姫神社でご祈禱した「万度麻」が納められているそう。

清らかな川の流れて心身を洗う



参道の途中から、緩やかな石畳を下りて五十鈴川の川岸へ。ここはかつての禊の場だ。巨石を敷き詰めた石畳は、徳川綱吉の生母・桂昌院が寄進したものと伝わる。透き通った川水で手をすすごう。

2 御手洗場

●みたらし

純白の御幌の向こうに天照大御神様が!

●こしろうぐう

参道の突き当たり、大階段を上るとそこが内宮の御正宮。外宮と同じように五重の板垣の先に、日本の総氏神様・天照大御神が御幌の前で静々と。写真撮影が許されているのは石段の下までなので気をつけて。

3 御正宮



真新しい橋を渡り
神宮125社の
最高峰へ

内宮は神宮全125社の中心で、正式名称を皇大神宮という。ご祭神の天照大御神は、日本津々浦々に祀られる八百万の神の最高位に君臨する神様。ご鎮座は2000年以上前の第十一代垂仁天皇の時代に遡り、今も日本人の総氏神として崇められている。神域への入口・宇治橋は平成21

年に架け替わったばかり。檜の香りもまだ清々しい橋を渡り五十鈴川畔の御手洗場で身を清め、御正宮にお参りしたら、太古の森の精気が色濃い別宮への小道にも分け入ろう。

内宮参拝DATA
☎0596-24-1111 (神宮同行)
MAP P19C4
①伊勢市宇治館町1 ②JR・近鉄伊勢市駅から三重交通バス内宮行きで20分、終点下車 ③境内自由 ④1・2月は5時~17時30分、3・4・9・10月は5~18時、5~8月は4~19時、11・12月は5~17時 ⑤414台

4 荒祭宮

御正宮の背後に佇む第一別宮

御正宮のちょうど裏手にあたる木立の中に立つのが、内宮の第一別宮・荒祭宮。御正宮から荒祭宮へと向かう小道には、神田で収穫した稲を納める御稲御倉や古神宝類を納める外幣殿といった神様の倉庫も並び、見ごたえあり。

5 風日祈宮

鳥路川の対岸に立つ風の神の社

宇治橋を小ぶりにしたような風日祈宮橋を渡ると、風の神様である級長津彦命と級長戸辺命をお祀りする別宮・風日祈宮に到着。五十鈴川の支流にあたる鳥路川に沿い、森に抱かれるように社殿が立つその周辺は、清々しい気が満ちる。

7 参集殿

参拝者のための休憩所。大きな能舞台があり、さまざまな能楽や狂言などが披露される。

6 神楽殿

入母屋造りの建物で、向かって右端から神楽殿、御饗殿、授与所。内宮参拝記念の御朱印はここでいただける。

伊勢神宮の基礎知識

知れば知るほど奥深い、伊勢神宮の歴史、そして営み。ちょっと知識があれば、お参りもぐっと充実したものになるはず。

1 伊勢神宮が伊勢にある理由とは?

今から2000年以上前、皇女・倭姫命やまことひめのみこと、天照大御神(あまてらすおみかみ)の永住の地を探し求めて各地を巡る旅をしておられた。その途中、五十鈴川の支流にさしかかったところで、「伊勢国は常世の浪の重浪帰する国なり。傍国のうまし国なり」と讃える大御神のお告げがあり、現在の内宮の場所に御鎮座されたと伝わっている。常世の国から波が打ち寄せる美しい国。海に向かって開け、気候が温暖で、海の幸、山の幸にも恵まれたこの土地を、天照大御神様ご自身がたいそう気に入られ、選ばれたと伝えられている。

2 20年に一度行われる式年遷宮とは?

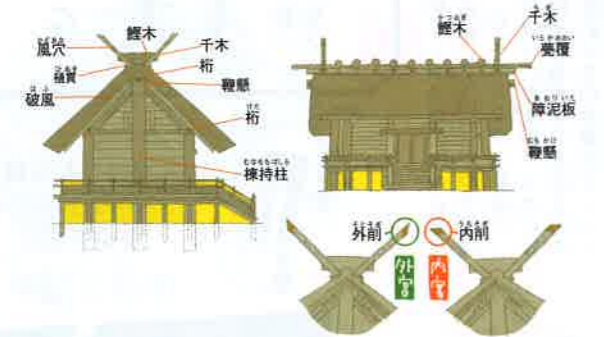
式年遷宮とは、20年に一度神宮の御正殿や装束、御神宝類をすべて一新する祭典。いわば神様のお引越し。第四十代天武天皇が発意されて、第四十一代持統天皇の時代に第一回の式年遷宮が行われた。中世の混乱期に中断されたのを除けば、1300年余りの間、守り続けられてきた行事である。20年に一度というサイクルは、神様の身の回りを常に若々しく保つとともに、社殿の造営や工芸の技術を次世代に伝承し、人を育てる優れた仕組みでもある。また、古い社殿の古材も徹底リサイクル。たとえば内宮御正殿の棟持柱は、棟持柱として20年、宇治橋の東詰め鳥居で20年、最低60年はお役目を果たす。

3 伊勢神宮の社殿の特徴とは?

内宮と外宮の「御正殿」は伊勢神宮だけに見られる「唯一神明造」。これは出雲の「大社造」と並び、現存する神社建築の中でも古い様式である。御正殿以外の別宮などは「神明造」。どちらも檜の素木を使う簡素な造りだが、唯一神明造は格上の建物にふさわしく、やや装飾が施されている。内宮と外宮ではほんのわずかの造りが違う。たとえば鯉木。内宮の御正殿は10本、外宮は9本。これに準じて内宮系の別宮は鯉木が偶数、外宮系の別宮は奇数に統一されている。千木の先端の削ぎ方も内宮と外宮では異なるので、見比べてみるのもおもしろい。



今から2000年以上前、皇女・倭姫命やまことひめのみこと、天照大御神(あまてらすおみかみ)の永住の地を探し求めて各地を巡る旅をしておられた。その途中、五十鈴川の支流にさしかかったところで、「伊勢国は常世の浪の重浪帰する国なり。傍国のうまし国なり」と讃える大御神のお告げがあり、現在の内宮の場所に御鎮座されたと伝わっている。常世の国から波が打ち寄せる美しい国。海に向かって開け、気候が温暖で、海の幸、山の幸にも恵まれたこの土地を、天照大御神様ご自身がたいそう気に入られ、選ばれたと伝えられている。



伊勢神宮の年中行事

おもな祭りとお祭り

9月の中秋	神宮観月会★ (じんぐうかんげつかい)	舞楽舞台上で中秋の名月の夜に開かれる宴(平成23年は内宮神苑にて)
9月下旬の3日間	秋の神楽祭★ (あきのかぐらさい)	内宮神苑の特設舞台上、華やかな舞楽と雅楽が披露される
10月15日~25日	神嘗祭 (かんなめさい)	その年の新穀を大御神に供え、収穫をもたらした神様に感謝を捧げる
11月23日~29日	新嘗祭 (にいなめさい)	天皇陛下が新穀を召し上げる宮中儀式に先立ち、神宮で行うお祭り
12月15日~25日	月次祭 (つきなみさい)	神宮のすべての神々に清浄な御饗と宮中からの幣帛を奉る
1月1日	歳旦祭 (さいたんさい)	新年の始まりを喜び祝うお祭り。両正宮と諸別宮にて行われる
1月11日	一月十一日御饗 (いちがつじゅういちにちみけ) ★一部公開	神宮のすべての神々に清浄な御饗を奉り、五丈殿で舞楽が行われる
2月17日~23日	祈年祭 (きねんさい)	五穀豊穡を祈る大御饗の儀と奉幣の儀を行う。別名としごいのまつり
4月下旬の3日間	春の神楽祭★ (はるのかぐらさい)	内宮神苑の特設舞台上、舞楽の調べにのせ華やかな舞楽が披露される
6月15日~25日	月次祭 (つきなみさい)	12月の月次祭と同じ

